

【茨城県から世界へ！ JICA 海外協力隊】

2024年度1次隊 茨城県各自治体への表敬訪問

国際協力機構（JICA）は、2024年8月に茨城県から5名のJICA海外協力隊員を2024年度1次隊として派遣いたします。隊員は、任国への出発を前に、下記のとおり茨城県知事及び市長を表敬訪問いたします。併せまして、開発途上国での2年間の活動を終えて帰国したJICA海外協力隊員の帰国時表敬訪問についても同時に実施いたします。つきましては、貴社媒体にて、茨城県から世界へ飛び立つJICA海外協力隊を県民の皆様にご紹介いただけましたら幸甚です。

1. 表敬訪問日程

表敬先（敬称略）	日時・場所	表敬者（敬称略）
茨城県 知事 大井川 和彦	2024年7月24日（水） 11:00～11:30	同県 JICA 海外協力隊員 5名 石井 沙知、加治 直弥、白戸 和樹、 滑川 美悠、野島 溪 帰国隊員 1名 瀬谷 暁子
水戸市 市長 高橋 靖	2024年7月8日（月） 13:30～13:45	滑川 美悠
古河市 市長 針谷 力	2024年7月12日（金） 15:30～15:45	野島 溪
つくば市 副市長 松本 玲子	2024年8月2日（金） 11:00～11:15	石井 沙知、白戸 和樹

2. JICA 海外協力隊 リスト

(1) 2024年度1次隊 派遣前隊員 5名

隊員区分	氏名	職種	国名	配属先
青年海外協力隊	石井 沙知	看護師	マラウイ	ムワンザ県病院
【活動内容と抱負】 近年、勤務していた病院にも外国人の患者様が多く来院されます。基本的に翻訳機を使用し対応していますが言語だけでなく文化の違いに戸惑いを持つスタッフも多く、毎回患者対応に難渋している印象があります。患者様の一番近くで働く看護師として、患者様が安心して治療を受けられるように支援するため英語や異文化について学びたいと考えたことが、協力隊への参加動機です。また、小児ICUで勤務していた経験から小児看護に興味を持ち、学会やワークショップ、勉強会などに積極的に参加してきました。院内				

の委員会活動では感染対策委員会と人材定着委員会に属し、病棟内での手指衛生の促進活動や挨拶運動などの活動などを行ってきました。これらの経験を活かし外国の医療の実際を体験すると同時に、現地の状況改善への一助となるような活動を行い貢献したいと考えています。

青年海外協力隊	かじ 加治 なおや 直弥	小学校教育	グアテマラ	キチエ県教育事務所
---------	-----------------------	-------	-------	-----------

【活動内容と抱負】

日本と赴任地の双方の国際理解教育を推進し、子どもたちの可能性を引き出せる教員でありたいという想いから協力隊への参加を志願しました。グローバル化の進行に伴い価値観の多様化が進む現在の社会において、物事を多角的にとらえる視点が必要とされています。まずは教員である私自身が現地に身を置くことで、自分自身の視野も広げることができると考えています。現職教員として参加させていただくため、最終的には日本の子どもたちに開発途上国の生活、文化、考え方などを伝え、異文化理解の促進という点で還元することが自分の使命と考え任地で努めて参ります。任地では、市内の小学校を巡回し、教師の指導力の向上に向けた研修会の計画・運営や、JICAの作成した国定教科書および指導書の定着・普及を目指した活動を行います。特に算数の学力に課題を抱えているため、自身の知見や小学生対象のボランティア経験、授業運営の経験等を生かしながら児童生徒の主体的な学びにつなげたいと思います。

青年海外協力隊	しらと 白戸 かずき 和樹	コミュニティ開発	ガボン	エスチュエール州支局 カンゴ水産支局
---------	------------------------	----------	-----	-----------------------

【活動内容と抱負】

父が元青年海外協力隊員だったことから2年間途上国で活動する協力隊に以前から関心がありました。自分の経験や技能を派遣国の人々の生活を良くするために活かしたく、また、語学を含め自分自身の成長の機会になると思い参加しました。派遣先のガボンでは、漁村の村民の方々の所得向上に向けた取り組みを行う予定です。現地の方々と話し合いを大切にして活動しようと思います。また、協力隊として活動する2年間で日本の外で、環境問題が人々の生活にどう影響しているか身をもって学びたいと考えています。

青年海外協力隊	なめかわ 滑川 みゆ 美悠	青少年活動	ミクロネシア	マタラニウム高校
---------	------------------------	-------	--------	----------

【活動内容と抱負】

大学時代に留学を考えていたのですが、新型コロナウイルスの影響もあり実現できないまま大学を昨年卒業しました。そして大学卒業後の進路を模索している中で青年海外協力隊の活動報告会に行く機会があり恥ずかしながら、最初は「留学ができなかったリベンジになるかもしれない」と軽い気持ちで協力隊に応募しました。しかし、協力隊の合格通知を受けてから現在まで、様々な仕事で現在活躍されている協力隊経験者の方々と話す機会を持つことが増え、「協力隊は絶対に貴重な経験になる」と口をそろえてお話しくださる姿をみるなかで、次第に協力隊活動で得られる経験への期待と責任感が増している今日この頃です。任国では現地の高校でスポーツの授業、クラブ活動（主にバスケットボール、バレーボール、ソフトボール）の支援・活性化や、学習支援活動を行うことを要請されています。これらの活動のみならず、自分のこれまでの経験やスキルを活用して様々な活動に取り組みたいと思っています。

青年海外協力隊	のじま 野島 けい 溪	PCインストラクター	エジプト	スルタン財団
---------	----------------------	------------	------	--------

【活動内容と抱負】

中学時代の担任教師が協力隊経験者であったことから活動の存在を知りました。実際に現地の人々の生活に入り込み、自らの手で途上国に暮らす人々の課題解決に励む姿に憧れを抱き参加を決めました。任国ではデジタルディバイドの解消を目的として活動し、地域住民や受け入れ先 NGO 団体の職員にパソコンの基本的な操作方法を指導する予定です。どんなに小さな結果でも現地の方々の暮らしが赴任前に比べてよくなる、またはよくなるきっかけを生み出せる、そんな日々を送りたいと考えています。活動後は積極的に協力隊での経験を発信し私自身が中学時代の担任教師から影響を受けたように、より多くの方々が国際協力の分野に対して関心を抱くきっかけとなるような活動する所存です。

(2) 2024 年度 帰国隊員 1 名

隊員区分	氏名	職種	国名	配属先
青年海外協力隊	せや あきこ 瀬谷 暁子	作業療法士	ペルー	国立ビクトル・ラル コ・エレラ精神科病院

【活動報告】

配属先は首都リマにある国立ヴィクトル・ラルコ・エレラ精神科病院で、1918年に設立されたラテンアメリカで最も古い歴史を持つ病院の一つです。ここでリハビリテーション科作業療法部門へ配属され、「より質の高いリハビリテーションの実施」を目的に作業療法プログラムの紹介と導入、同僚と共に患者に対する作業療法の実施、同僚スタッフへのアドバイスをを行いました。活動を始めた当初、何を目標に作業療法を立案していけばいいのかと悩みました。そこで、一生をここで過ごすのであれば入院生活の中に、楽しさや喜び・満足感といった感情を持てる瞬間や笑顔になれる時間が少しでも増えるようなプログラムの提案や実施を行ないました。現地スタッフの同意が得られず実施には至らなかったプログラムや、患者が慣れていないことから直ぐには導入が難しいものもありましたが継続して実施することで患者からプログラムに参加したいというニーズを得られ、また「（作業療法により）気分が良くなる」「調子が良くなった」などの声も聞かれるようになり現地スタッフの態度も変化していきました。

3. JICA 海外協力隊とは

JICA 海外協力隊は、日本政府の ODA（政府開発援助）の一環として、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。「開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与」、「異文化社会における相互理解の深化と共生」、「ボランティア経験の社会還元」を目的としています。

日本国籍を持つ 20 歳～69 歳の方が対象となり、派遣期間は原則 2 年間。日本で培った知識や経験を活かし、開発途上国と国際協力の志を持った方々が、現地の人々とともに生活し、草の根レベルで開発途上国の抱える課題の改善・解決に貢献します。

詳細は、JICA 海外協力隊 Web サイトをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 筑波 連携推進課 菅谷
TEL 029-838-1117 内線 4225
E-mail: Sugaya-Shigeyuki2@jica.go.jp